

木と森を生かすデザイン

木工デザイナー 小田原 健

NHKラジオ
明日への言葉
2012年9月9日



小田原 健

昭和09年 浜松に生まれる。
昭和29年 東京芝家具業界にて基礎技術を習得
昭和33年 吉村順三氏に師事し、設計協力
昭和40年 小田原設計所を設立
昭和43年 東京芸術大学建築学部講師。平成元年に至
昭和50年 木曾三岳木工所指導
昭和60年 株式会社ベル研究所設立
平成03年 スウェーデン大使館家具事業部指導
平成06年 ジェトロ派遣指導員(フィリピン家具産業育成)
平成08年 スウェーデンパイン材の有効利用企画
平成10年 協)ウッドワーク上越杉間伐材有効利用指導
平成14年 長野県、森世紀プロジェクト発足、親方
平成15年 ジャイカ派遣指導員(タイ木材産業育成指導)



協)ウッドワーク小田原と猪



ウッドワーク作品

小さい頃から物づくりが好きだった。16歳の時、米国の工業デザイナー、デーモンド・ロイの本に出逢い、木工デザイナーを目指した。彼はタバコのピース箱のデザインをした人、あのハトは不滅ハト。今だに飛んでいる。

20歳の時、木工家具で有名な東京市場家具組合に入り基礎を勉強した。明治の元勳・伊藤博文が作った組合。組合メンバーは各国の駐日大使館の西洋家具づくりに従事していた。元町商店街は西洋家具の町。

1950年(15歳)昭和の名人左甚五郎といわれた三輪磯松の元を訪ね弟子入り。「草鞋脱ぐ所良ければ全てよし」という大先生との出会いから弟子入り人生がはじまる。一年間は挨拶と掃除だけの見習い。一年目にやっと道具を持った。3年目に三越で展覧会がありクラシックなテーブルをつくり出品し、最優秀賞を受賞。師匠からオレより上手くなったね！と褒められた。

どの木も生きていて特色がある。自然の素材に逆らってはダメ。

1968年(33歳)吉村順三教授より東京芸術大学建築科の講師の辞令を受ける。芸大(職人の集まり)の講師になり22年勤めた。生徒は毎年15人、年間家具デザイン担当を務め330人の生徒を指導。

吉村順三先生にかわいがられ、先生の懐に飛び込んだ。のち、先生は文化功労者になった住宅建築では一番尊敬されている人。箱根のインタナショナルホテルを作ることご縁で先生に出会った。空間の作り方が美しい方だった。

講師をしていた頃の話。優秀な人は課題をだすと簡単にクリア。ダメな人は、汗をかきかきでも彼にも光るところがあり、そこを褒めてあげた。卒業の頃にはダメな生徒の方が優秀になっていた。

「人生は人との出逢い！」

1993(平成3)年、58歳の時、大分県日田地域を巨大台風が襲い、大木が倒れてしまった。風倒木事件。住宅にするると10万棟分。国は木は死んでいるので、全て焼却処分をすると決めていた。傷だらけの木は生き物。木は助けてくれ！と言っている。角材にしてログハウスにした。



94年「風倒木展」を東京青山スパイラルホールにて6日間実施し、1万人の来場者を集める。ログハウスが世に知られるきっかけになった。

スウェーデン大使館から話がありパイン材の良さを知らしめるためにイス・テーブルをつくり、スウェーデンの森を再生しよう！に参加した。ニュージーランド、フィリピン、タイともご縁が出来た。

1995年(60歳)地元の杉材をつかって地域に貢献したいという話があった。上越協)ウッドワーク地域産根曲杉の有効利用のためのプロジェクトを立ち上げ、組合18社の指導をする。初仕事として公共事業の市営温泉センターの家具内装工事を受注(6000万円)。

1996年(61歳)ウッドワーク作品が農林大臣賞最優秀デザイン賞を受ける。話題の組合としてNHKクローズアップ現代で紹介される。

森を変えるがキャッチフレーズ！森を変えながら家具をつくりたい。

地球基準で物事を考えている。森の微生物が一番働いている。自然の循環を無視してはいけない。地球をデザイン！